日本語版物語関与尺度作成の試み

回答傾向および信頼性, 妥当性の探索的検討

○小山内 秀和¹・小森 めぐみ²・楠見 孝³

(1 浜松学院大学・2 四天王寺大学・3 京都大学)

キーワード: 物語読解, 物語への関与, 尺度開発

Japanese version of the Narrative Engagement Scale: An exploratory survey on reliability and validity

Hidekazu OSANAI¹, Megumi KOMORI² and Takashi KUSUMI³

(1 Hamamatsu Gakuin Univ., 2 Shitennoji Univ., 3 Kyoto Univ.)

Key Words: Narrative reading, Narrative engagement, Scale development

目 的

小説や物語を読むとき, 読者はしばしば物語世界に没入する (小山内・楠見, 2013)。没入には, 注意の集中やそれにもなう現実世界への注意の減退, 情景のイメージ化や登場人物への同一化, 登場人物に対する感情移入など, さまざまな側面があり, これらが互いに関連を持ちつつ同時に生起する状態であると考えられている (小山内・楠見, 2013)。現在, 読者が実際に物語を読んだときの没入状態を測定する尺度としては, Green and Brock (2000) の物語移入尺度が多くの研究で用いられている。しかしながら, 移入尺度には「人生観の変化」や「物語の出来事と現実の体験との関連性」を問う項目などが含まれているなど, 課題があると考えられる。

一方, Busselle and Bilandzic (2009) は, 物語理解との関連を明確にし, より詳細に読解時の体験を測定するため, 物語関与尺度 (Narrative Engagement Scale: NES) を作成した。この尺度の最終版は 12 項目で構成されており, 物語の内容理解 (NU), 物語への集中の程度 (AF), 登場人物に対する感情 (EE), 物語の現実感 (NP) の 4 因子から成り立っている。この尺度を用いることで, 物語読解時の没入状態について, 多次元的に, かつ読解過程との関連をより明確に把握することが可能となると考える。

そこで本研究では, Busselle らの物語関与尺度を日本語に翻訳し, 信頼性と妥当性について基礎的なデータを得ることを目的とした。

方 法

調査参加者 18 歳から 75 歳の男女 900 名 (女性 450 名, 男性 450 名) が調査に参加した。参加者はインターネットを通して回答を行った。

物語課題 物語への関与を生じさせるための課題として, 小川未明の「時計のない村」(小川, 1976) と「金の輪」(小川, 1951) の 2 編 (いずれも 1800 字程度) を用いた。

物語関与尺度の作成 Busselle and Billandic (2009) が作成

した物語への関与尺度 (NES) の全項目を日本語に翻訳した。翻訳は, 原著者 Rick Busselle 氏の許諾を得たうえで, 英文校閲会社に逆翻訳を依頼した。日本語版 NES は原版と同じ 12 項目で構成されており, 「1: 全く当てはまらない」から「7: 非常に当てはまる」の 7 件法で回答してもらった。

移入尺度 物語関与尺度との関連を検討するために, Busselle and Billandic (2009) に倣い, Green and Brock (2000) の移入尺度を用いた。移入尺度は, 読者が現実から物語世界に意識を移動させて物語内容に没頭する程度を測定する尺度であり, 小山内・楠見 (2016) による邦訳版尺度のうち, 物語内容によって変更の必要が無い 11 項目を用いた。

手続き 参加者は無作為に 2 群に割り振られ, 一方の群は「時計のない村」を, もう一方の群は「金の輪」を, それぞれ読んだ。その後, 物語内容についての質問と, NES, そして移入尺度の順番で回答した。

結 果 と 考 察

まず, NES の因子構造を検討するため, 確証的因子分析を行った。Busselle and Bilandzic (2009) のモデルに基づき, Table 1 のような因子構造を仮定して分析を行ったところ, 適合度は満足すべき値であると判断した ($GFI = .936$, $CFI = .931$, $RMSEA = .082$)。この結果, 多くの項目が原版と同じ因子へ高い負荷量を示したが, 項目 8 は負荷量が .190 と低い値となった。これは, この項目の表現に起因する可能性がある。

また, 原版の下位尺度ごとに Cronbach の α 係数を算出したところ, 第 3 因子の NP は $\alpha = .54$ と低くなったものの, それ以外の尺度は $\alpha > .75$ となった。なお, 原版の因子にしたがって各下位尺度の得点を算出し, 移入尺度との関連を検討したところ, いずれの下位尺度も有意な正の相関を示した。

以上のように, NES については因子構造にやや課題はあるものの, 移入尺度との関連から, 物語への没入状態を測定できている可能性は示されたと考えられる。

Table 1 日本語版NESの確証的因子分析結果と移入尺度との関連

番号	項目	F1 (NU)	F2 (AF)	F3 (NP)	F4 (EE)
1	物語のなかで起きていたことをくみ取るのが難しかった。	.783			
2	登場人物のことがはっきりとはわからなかった。	.649			
3	話の流れをつかむのが大変だった。	.880			
4	物語を読んでいるあいだ, 気持ちがあちこちにそれていた。		.792		
5	物語を読んでいるあいだ, ほかのことを考えていた。		.729		
6	物語に集中し続けることが大変だった。		.810		
7	物語を読んでいるあいだ, 身体は部屋にあるのに, 心は物語の世界の中にいた。			.704	
8	物語は新しい世界を作り出したが, 物語が終わるとすぐにその世界は消えた。			.190	
9	物語を読んでいるあいだ, 物語の世界を現実の世界よりも身近に感じることがあった。			.737	
10	物語は, 私の感情に影響を与えた。				.793
11	物語のなかで, 主人公が成功するとうれしい気分になり, 何か辛いことを経験すると悲しい気分になった。				.750
12	物語に出てくる登場人物の誰かをかわいそうに思うことがあった。				.629
因子間相関: F1		-	.814	-.067	-.005
F2			-	-.178	-.144
F3				-	.810
F4					-
下位尺度得点と移入尺度との相関		-.319	-.443	.543	.595